

Helping parents contain their distress: An examination of psychoanalytical parent work

親が自身の心理的苦痛をコンテインすることへの支援

精神分析的な観点からの親面接についての一考察

脇谷 順子 国際基督教大学

本論文は、筆者によって行われた臨床事例を分析することによって、精神分析的な方法が、子どもが呈する問題行動によって苦悩している親をどのように援助することが可能かについて述べている。事例は学校と家庭での行動上の困難さのために個人心理療法を受けている子どもの両親との面接である。この親面接において、筆者は親から投影された感情、特に怒りと無力感について考えることに苦悶した。親面接を通して、親は自分たちの怒りを少し異なるやり方で取り扱い始めた。本論文では、親面接のプロセスが描かれ、転移-逆転移を見ていくことによって、親子の関係を理解することが試みられている。そして、親が子どもの挑戦的な行動の意味を考えることを援助する方法について論じ、精神的苦痛にどのように対応するかを考える時、親面接者がロールモデルとしていかに機能できるかを検討している。また、親の内的および外的困難さによって、「ほどよい親」として機能する親の能力が影響を受けていた可能性についての考察も加えている。

キーワード: コンテイメント, 転移-逆転移, 精神的苦痛, 親面接
